

平成30年度第2回 浦安市生涯学習推進計画策定懇談会

第1回分科会（スポーツ） 議事要旨

日時：平成30年9月5日（水）

午後2時～4時

会場：市役所1階 S1会議室

<出席委員>

野川 春夫 分科会長
福元 明彦 委員
長島 康晴 委員
阿部 信之 委員

<欠席委員>

なし

<議 事>

1. 開会
2. 分科会長あいさつ
3. 内容説明
4. 議事
(1) 課題の整理について
(2) 次期計画の方向性について
5. その他
6. 閉 会

<配布資料>

- 【資料1】 市民意識調査等に基づく課題の整理
- 【資料2】 課題検討シートのまとめ
- 【資料3】 懇談会（分科会）について

1. 開会

野川分科会長よりあいさつが行われた。

2. 議事

(1) 課題の整理について

(2) 次期計画の方向性について

事務局より議事(1)について、資料1、2、3を用いて説明が行われた。

(委 員) 資料2をもとに議論を進めたい。はじめに、検討テーマ1について意見はあるか。

(委 員) 働き方改革によって、朝や夜に時間ができる人が出てくると予想される。それにあわせてスポーツ施設利用の利便性向上に取り組めるとよい。生涯スポーツ健康都市宣言は、スポーツを行う市民には徐々に知られてきているように感じる。スポーツ教室等における子育て中の女性向け託児サービスは需要があると思う。また、高齢者の健康づくり、スポーツへの意識は高まってきていると思う。市民の個々の状況に応じた施策を検討できるとよい。

(委 員) スポーツ施設の稼働率が高く、利用枠の確保ができない状況が続いており、施設不足は課題だと感じている。興行のスポーツ大会等を実施できる環境も十分でない。また、夏場は日中にスポーツをするのは厳しいので、施設の開館時間の拡大を検討できるとよい。軽スポーツの認知度向上に広報うらやすは効果的である。メジャー競技以外に関心を持つ市民も多い。多様なニーズを受け入れる体制の整備にも取り組めるとよい。また、様々な種目の楽しさを伝える指導者の育成にも取り組んでいけるとよい。生涯スポーツ健康都市宣言の認知度向上については、市に任せっきりになっていたところもある。市とスポーツ団体が協働して市民の生涯スポーツの推進に取り組んでいきたい。庁内の各課で健康づくりなど似たようなイベントが行われていることがある。情報を整理して市民に発信していけるとよい。

(委 員) 稼働率が高い状況もあるが、16万人の市民に対して総合体育館や公民館の体育館など、充実した設備があると言えるのではないかと。ただし、働き方改革の流れもあり、開館時間の拡大は検討できるとよい。また、利用団体に偏りが出ることがないような仕組みになっているとよい。平成26年度から28年度まで行われていた健幸ポイントプロジェクト実証事業は、効果があったと実感している。スポーツの実施に対するインセンティブがあると関心の低い人も巻き込んでいけると思う。スポーツ教室等における子育て中の女性向け

託児サービスは必要だと思う。スポーツをやりやりたくてもやれない、子育て中の成人は多いと思う。高齢者向けの施策については、老人福祉センター（Uセンター）のような場所で軽い運動を行う機会を増やしていけるとよい。また、学校と連携してスポーツを通じた多世代交流に取り組むことは重要だと思う。

- (委員) 浦安市は交通の利便性が高く、興行としてのスポーツ大会の開催への要望は多いが、同時に市民の「する」スポーツの場を圧迫しているとも考えられる。
- (委員) 公民館の体育館では競技スポーツの公式大会などは実施できない。また、学校体育館でも実施は難しい。
- (委員) 武道場も市の中央武道館だけでは足りているとは言えない。また、体育協会に加盟していない団体の競技も活動場所がなく、新たな取組が十分にできていない状況がある。
- (委員) 高齢者向けの取組は老人福祉センター（Uセンター）を活用していけるとよい。
- (委員) 「する」スポーツ施設が不足しているという意見があったが、「みる」施設はどうか。市の施設で足りない分は、市内にある大学等と連携して場を確保していくという視点も重要かもしれない。若い世代は、安全が確保できれば深夜に運動やスポーツを行うこともある。施設の24時間利用や民間スポーツ施設の利用者への補助というアイデアがあってもよいかもしれない。
- (委員) 市内に24時間利用できる民間のスポーツジムがあり、若い世代の利用者が多いと聞く。
- (委員) 個人で運動するだけが目的の人もいれば、仲間づくりが目的の人もいる。目的に応じたスポーツの場づくりを考えていけるとよい。スポーツ推進計画のねらいはスポーツを楽しむ人を増やすことである。子どもと一緒にできる機会を増やすなど、工夫していけるとよい。
- (委員) トリムバレーボールは学校の体育館を利用してうまく実施できている。また、パークゴルフもコミュニティづくりと合わせて推進できている。バスケットボールについては、県の体育協会と連携して子どもを巻き込んだ取り組みを行っている。
- (委員) スポーツのコミュニティがセーフティネットとなるという視点で、仲間づくりや場づくりを進めていけるとよい。また、ロコモティブシンドローム対策等を目的とした健康・体力づくりのプログラムは今後重要になるだろう。
- (委員) スポーツに関心が低い人にとって、軽スポーツは運動やスポーツを実施するきっかけになると考えている。また、地域でスポーツを推

進していくには、自治会対抗運動会といったアイデアがあってもよいかもしれない。

- (委員) 他自治体では企業対抗の運動会を実施し、参加希望が増えているケースもある。こういった事例も参考にできるとよい。続いて、検討テーマ2について議論したい。
- (委員) 広く市民に情報発信ができていないと感じている。種目の垣根を越えてスポーツを推進していけるとよい。「みんなのスポーツの集い」や「スポーツフェア」は子どもがスポーツに関心を持つよいきっかけだと感じている。生涯スポーツと軽スポーツはそれぞれ市民がどのように取り組むものか、区別して情報提供ができるとよい。
- (委員) 広報うらやす以外にも様々な媒体で情報を発信できるとよい。指導者については、県がスポーツリーダーバンク事業で指導者の登録・紹介等を行っているが、浦安市居住者は0人となっており、認知度は高くない。浦安市でそういった制度をつくってもよいかもしれない。競技スポーツに限らず軽スポーツでも需要はあるのではないか。
- (委員) 公園で乗れるペダルのない子ども用の自転車が人気である。親子一緒に公園でスポーツを楽しめる環境を充実していけるとよい。
- (委員) 「みんなのスポーツの集い」は始めた当初は参加者が少なかったが、学校等を通して案内を行うことで徐々に参加者が増えていった。
- (委員) 情報発信については、広報うらやすのほか、自治会の回覧板やスーパー等の掲示板も効果がある。
- (委員) 若い世代は新聞を購読していない人も多いため、広報うらやすが手元に届かない場合がある。
- (委員) 様々な手段で市民の馴染みが薄いオリンピック・種目や軽スポーツについても周知していけるとよい。
- (委員) 高齢者にはケーブルテレビが、若い世代にはSNSが効果的という指摘もある。ターゲットごとにきめ細かい広報の手段を検討していくことが重要ではないか。

- (委員) 続いて、検討テーマ3について議論したい。
- (委員) バルドラール浦安のホームゲームなど、ボランティアの協力のもと運営が行われているケースが市内にもある。
- (委員) 浦安市民がボランティアに参加しているのか。
- (委員) 市内の高校や大学からもボランティアが来るので全て浦安市民ではない。
- (事務局) 2020 東京オリンピック・パラリンピック推進課でもボランティア参加の案内を行っている。
- (委員) 「みる」「ささえる」スポーツを推進するうえでサポーターを集め

るという視点は重要である。また、子どもがトップアスリートとふれあう機会をつくり、夢やあこがれを持つきっかけを提供できるとよい。

- (委員) 公民館の体育館でニュースポーツを実施しているが、ドアを閉めきってしまうと中で何をやっているかわからない。外から様子が見えるようなアイデアがあってもよいかもしれない。
- (委員) 主に「みる」スポーツの場となるアリーナと小さなイベント等を行う体育館とで施設を使い分けていけるとよい。
- (委員) 浦安には地域の資源が豊富にある。ウォーキングやランニングなどのイベントを行い、地域でスポーツを盛り上げていけるとよい。
- (委員) 舞浜周辺でのマラソン大会の要望もあるが、コースの検討などすぐの実現は難しそうである。
- (委員) これまで、障がい者スポーツに関する意見が出ていない。意見はあるか。
- (委員) 障がいの有無に関わらず一緒にスポーツを行うことはとても重要だと考えている。
- (委員) ボッチャなど、すでに実施している種目もある。
- (委員) 車いす競技は体育館の床面の保護も重要となる。プレーヤーとともに競技環境の整備も検討していけるとよい。
- (委員) 卓球、陸上、サッカーなどは障がい者と健常者が一緒になって実施していく考えがあるが、指導者の育成についてこれから検討していく必要があると考えている。
- (委員) スポーツを通じた共生という考え方は今後重要になるだろう。競技の実施、指導者育成などのノウハウを蓄積していくことが大切である。また、ボウリングやゴルフなど主な競技の年齢層が高齢化している種目について、若い世代に魅力を伝えていくことも今後重要となる。
- (委員) キャッチコピーなど、多世代に伝わる情報発信の方法を考えていけるとよい。
- (委員) 近年盆踊りが若い世代にも広がっている。こうした事例を参考にできるとよい。
- (委員) eスポーツもどのように捉えていくか検討が必要ではないか。
- (委員) スケートボードがオリンピックの種目となったこともあり、アパンスポーツの位置づけも考えていく必要がある。このようなスポーツを計画の中で健康づくり等の視点とどう整理していくかがポイントとなる。資料3のP4(1)現行計画に記載されていた課題について議論した。継続していく視点等の意見はあるか。
- (委員) ライフステージに応じて細かくターゲットを設定して施策を推進

していけるとよい。

(委員) スポーツにあまり関心のない子どもをどう巻き込んでいくか考えられるとよい。

(委員) 未就学児、小学生、中学生など、子どもも一括りにせず、各年代で楽しむという視点で施策を検討していけるとよい。

(委員) スポーツを通した世代間の交流も大事な視点になると思う。児童生徒の放課後の時間で交流ができるとよい。

(委員) 運動部活動のあり方についても、国の議論等を参考にしながら浦安ならではの施策を考えていけるとよい。

(委員) 選手から指導者への転向を支援していく仕組みもあるとよい。

(委員) スポーツクラブや民間のスポーツ団体との連携・協働の取組も一層充実していけるとよい。

(委員) プロスポーツチームとの連携・協働や興行の招致にも力をいれて「みる」「ささえる」スポーツを推進していけるとよい。

(事務局) 現在の生涯学習推進計画の基本理念はスポーツだけを対象としたものではない。もし今回の計画でスポーツの基本目標を掲げる場合、生涯スポーツ健康都市宣言とリンクさせる必要があるのではないかと考えている。

(委員) 考え方の整合は取れていた方がよいが、同宣言は平成 22 年のものである。市のスポーツ推進の課題と照らし合わせて時代にあった考え方を示すとともに、市民に伝わりやすい表現を検討できるとよい。

(委員) 具体的にイメージしやすいよう工夫できるとよい。

(事務局) 現在作業を進めている事業の位置づけも踏まえて検討していく。

(委員) 16 万人の市民全員が同時にスポーツ施設を使用することはできない。ターゲットを明確にして、「する」「みる」「ささえる」視点で様々な、スポーツに関わる機会を充実していくことが重要である。こういう視点と生涯スポーツ健康都市宣言を参酌してスポーツ推進の方向性を示していけるとよい。

3. その他

第 2 回分科会の日程は後日事務局が調整することとなった。

4. 閉 会

以上